

2021年卒
Vol. 2

11月後半時点の就職意識調査

キャリアス就活2021 学生モニター調査結果 (2019年12月発行)

2021年卒学生の就職戦線の見方や就活準備状況は、2020年卒者と比べてどのように変化しているだろうか。キャリアス就活・学生モニターを対象に、11月後半時点での就職意識および就職活動の準備状況などを尋ねた。

1. 就職戦線の見方

- 先輩たちより「厳しくなる」86.0%。前年調査に比べ28.1ポイント増加
- 採用活動の早期化や、景気後退による採用規模縮小を懸念する声が目立つ

2. 11月後半時点での志望業界

- 志望業界が「明確に決まっている」22.0%、「なんとなく決まっている」53.0%
- 1位「インターネットサービス」、2位「情報処理・ソフトウェア」、3位「水産・食品」

3. 企業に提供した個人情報の管理や運用への考え

- 管理や運用方法が「とても気になる」28.9%、「やや気になる」31.3%

4. 企業選びのこだわり度合い

- 「社風・人に強くこだわる」55.6%、「企業規模に強くこだわる」13.0%

5. 就職活動の中心とする予定の企業の規模

- 「業界トップの企業」21.6%、「大手企業」37.7%。大手狙いの学生が依然過半数

6. 就職活動準備状況

- 11月までの就活準備は「自己分析」75.0%、「業界研究」69.2%。前年より早く開始
- 就職準備イベントへの参加経験者は87.8%。参加回数も前年より増加(4.1回→4.6回)

7. 就職活動開始状況

- 「自分の中で就職活動は始まっている」85.7%。スタート時期は「3年生の6月」に集中
- 「就活スタート」と思う行為は、「インターンシップ情報を探す・応募する」が最多

8. インターンシップの参加状況

- モニター全体の88.8%が参加経験あり。前年同期より2.6ポイント増加
- 平均参加社数5.5社のうち、就職したいと思った企業は2.0社

9. 今後のインターンシップ参加予定

- 今後参加したい時期は「1月」が最多。これから参加したいのは「短期のもの」(80.5%)

調査概要

- 調査対象：2021年3月に卒業予定の大学3年生（理系は大学院修士課程1年生含む）
 回答者数：1,072人（文系男子328人、文系女子338人、理系男子268人、理系女子138人）
 調査方法：インターネット調査法
 調査期間：2019年11月15日～25日
 サンプルング：キャリアス就活2021学生モニター（2016年卒以前は「日経就職ナビ・就職活動モニター」）

1. 就職戦線の見方

2021 年卒の就活生は、自分たちの就職戦線が 1 学年上の先輩たち (2020 年卒者) に比べてどのようになると見ているのか、その見通しを尋ねた。「やや厳しくなる」という回答が 7 割以上を占め (76.9%)、「非常に厳しくなる」 (9.1%) を合わせると、計 86.0% が厳しくなると予想。前年調査 (計 57.9%) に比べ 30 ポイント近く増加した。

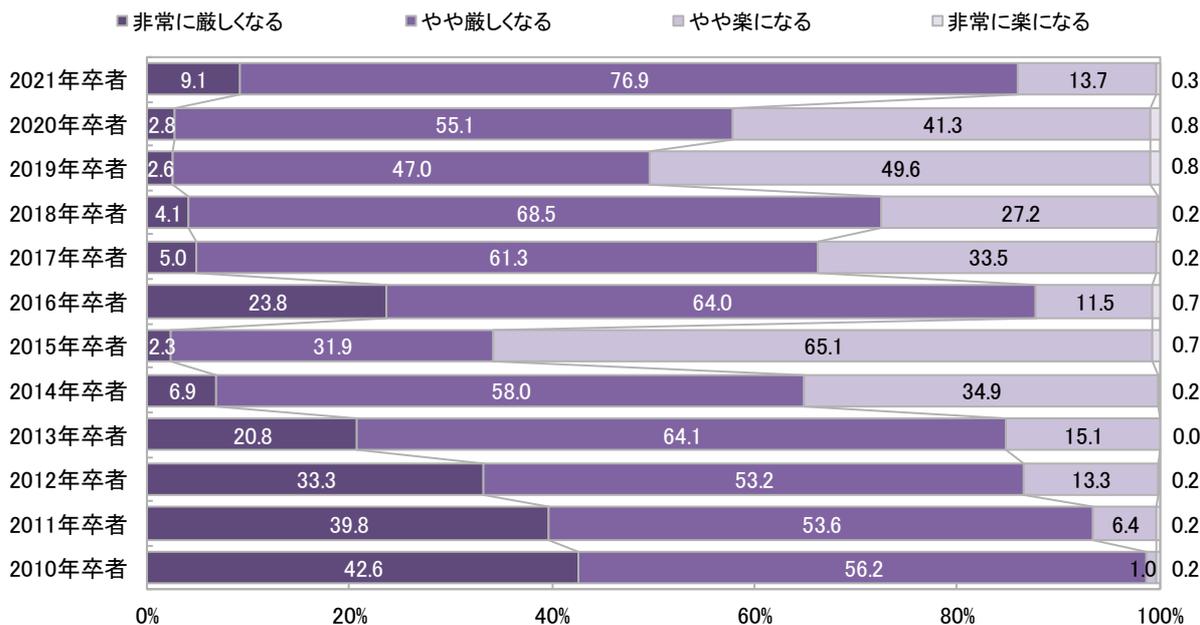
厳しくなると見ている学生のコメントを見ると、経団連の指針廃止を理由に挙げる声が目立つ。日程ルール自体は変わらないものの、指針が出ないことで形骸化が進み、企業の動き出しが早まるとの見方が大勢を占める。準備を早く進めないと出遅れてしまう、と焦る姿が浮かび上がる。

なお、「厳しくなる」が 8 割を超えるのは 2016 年卒者以来 5 年ぶりだが、当時は大幅なスケジュール変更を控え、不安が高まっていた。

指針廃止以外では、東京オリンピック後の景気後退を予想し、採用数の縮小を懸念する声も散見された。特に大手企業が採用数を絞れば、ますます倍率が上がることを不安視する学生もいるようだ。

一方、楽になると見ている学生には、人手不足による売り手市場の継続を根拠に挙げる声が依然多い。早期化をチャンスと捉える向きもあった。

<就職戦線の見方>



■「厳しくなる」と見る理由

○経団連の指針が撤廃され、就活のスピードがより早まる可能性があり、うかうかしていると取り残される可能性があるから。 <文系男子>

○経団連のスケジュールの指針がなくなったので、どの企業がどのように動くか予想できない。 <文系女子>

○オリンピックと採用活動を被せないよう、秋冬インターンシップに参加した学生の中から絞り込みを始める企業もあると考えられる。インターンに参加できないと選考期間が遅れ、長引く可能性がある。 <理系男子>

○増税やオリンピック後の消費の低迷で景気が悪化するため、企業は採用数を減らすのではないかと考えている。 <文系女子>

■「楽になる」と見る理由

○人材不足が改善していないため、企業を選ばなければ楽になっているのではないかと思います。 <理系男子>

○早いうちから選考に参加しやすくなるため、努力次第でチャンスをどんどん増やせるから。 <文系男子>

2. 11 月後半時点の志望業界

志望業界の決定状況は、「なんとなく決まっている」という回答が最も多く、53.0%。「明確に決まっている」は22.0%で、11月後半の時点で2割強が明確に志望業界を固めていることがわかった。「決まっていない」学生は25.0%と4人に1人の割合。決定のペースは前年同期よりもやや早まっている。

志望業界のある学生に、具体的に業界を尋ねたところ (40業界から選択)、最も多かったのは「情報・インターネットサービス」(18.8%)で、ここに「情報処理・ソフトウェア」(17.4%)が続き、序盤からIT人気が目立つ。3位は「水産・食品」(16.8%)だが、理系女子でポイントが集中しており(37.8%)、全体順位を押し上げた格好だ。IT業界が属性問わず上位にきているのとは対照的だ。

属性別に確認すると、文系男子の1位は「銀行」で、2位は「商社(総合)」。

文系女子は「マスコミ」が1位で、「ホテル・旅行」が2位。理系男子は「電子・電機」のあとに「情報処理・ソフトウェア」「情報・インターネットサービス」が続き、IT業界への関心が特に高いことがわかる。

ただ、志望業界は就職活動が進んでいく中で変化することも多い。今後の推移に注目したい。

<志望業界の決定状況>

	(%)					
	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
明確に決まっている	22.0	21.4	23.8	13.0	28.0	28.3
なんとなく決まっている	53.0	51.9	47.3	56.5	56.0	52.2
決まっていない	25.0	26.7	29.0	30.5	16.0	19.6

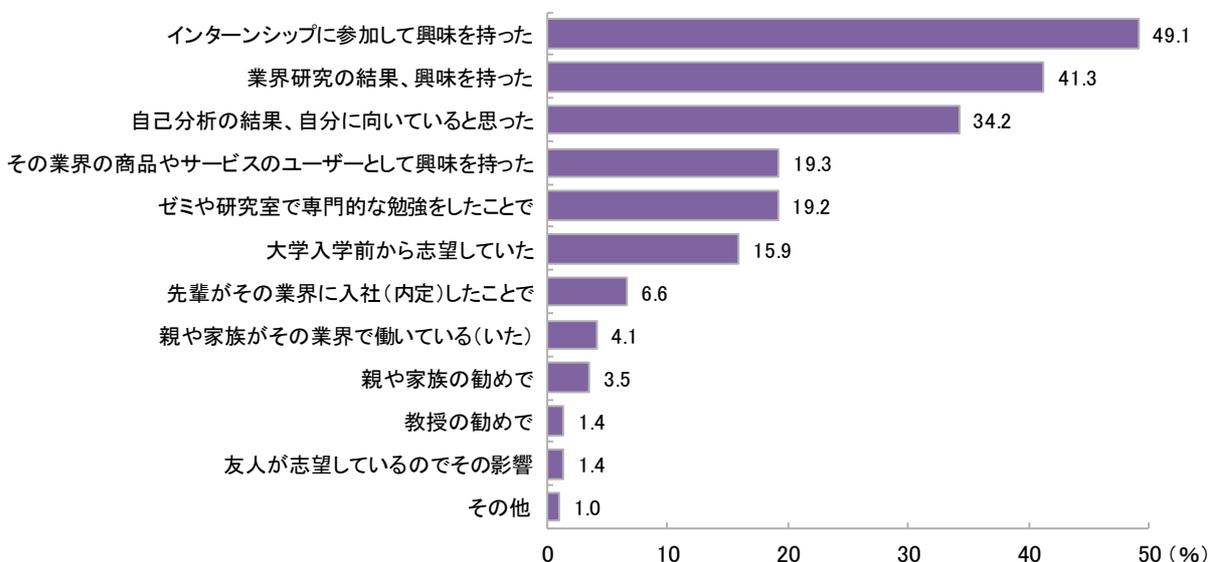
<志望業界(上位 20 業界)>

		※5つまで選択 (%)								
全 体		文系男子		文系女子		理系男子		理系女子		
1	情報・インターネットサービス ^⑤	18.8	銀行	21.9	マスコミ	24.7	電子・電機	30.2	水産・食品	37.8
2	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト ^⑨	17.4	商社(総合)	19.3	ホテル・旅行	17.4	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	25.3	医薬品・医療関連・化粧品	29.7
3	水産・食品 ^②	16.8	調査・コンサルタント	18.5	調査・コンサルタント	16.2	情報・インターネットサービス	24.9	素材・化学	26.1
4	調査・コンサルタント ^④	15.2	情報・インターネットサービス	16.7	建設・住宅・不動産	16.2	自動車・輸送用機器	22.7	建設・住宅・不動産	22.5
5	建設・住宅・不動産 ^⑩	14.9	保険	16.7	情報・インターネットサービス	15.7	素材・化学	20.4	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	19.8
6	素材・化学 ^③	14.3	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	15.9	商社(総合)	15.3	精密機器・医療用機器	19.1	情報・インターネットサービス	17.1
7	医薬品・医療関連・化粧品 ^①	13.6	建設・住宅・不動産	15.9	水産・食品	14.9	機械・プラントエンジニアリング	17.3	官公庁・団体	11.7
8	マスコミ	13.3	マスコミ	13.3	運輸・倉庫	13.6	医薬品・医療関連・化粧品	16.9	調査・コンサルタント	10.8
9	電子・電機 ^⑥	12.9	官公庁・団体	12.9	官公庁・団体	13.2	水産・食品	16.0	商社(専門)	9.0
10	商社(総合) ^⑦	12.4	運輸・倉庫	12.0	銀行	13.2	調査・コンサルタント	12.9	マスコミ	8.1
11	自動車・輸送用機器	11.9	商社(専門)	11.2	商社(専門)	13.2	エネルギー	10.7	通信関連	8.1
12	官公庁・団体	11.6	証券・投信・投資顧問	11.2	人材紹介・人材派遣	12.8	建設・住宅・不動産	8.9	農業・林業・鉱業	8.1
13	銀行 ^⑧	11.3	自動車・輸送用機器	10.7	教育	11.9	通信関連	8.9	商社(総合)	7.2
14	運輸・倉庫	10.0	エネルギー	10.7	医薬品・医療関連・化粧品	10.6	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス	8.9	印刷・パッケージ	7.2
15	商社(専門)	9.6	水産・食品	9.4	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	10.2	官公庁・団体	8.4	電子・電機	6.3
16	エネルギー	9.0	素材・化学	8.6	保険	9.8	鉄鋼・非鉄・金属製品	8.4	精密機器・医療用機器	6.3
	保険	9.0	電子・電機	7.7	素材・化学	8.5	運輸・倉庫	6.7	自動車・輸送用機器	5.4
18	機械・プラントエンジニアリング	8.8	教育	7.3	エネルギー	8.1	農業・林業・鉱業	6.2	機械・プラントエンジニアリング	5.4
19	精密機器・医療用機器	8.6	通信関連	6.9	通信関連	6.8	商社(総合)	4.9	鉄鋼・非鉄・金属製品	5.4
20	通信関連	7.6	人材紹介・人材派遣	6.9	エンターテインメント	6.8	OA機器・家具・スポーツ・玩具他	4.9	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス	5.4

※○の中の数字は前年同調査の全体順位10位以内

現時点で第 1 志望としている業界について、志望するに至ったきっかけを尋ねた。あてはまるものをいくつでも選んでもらったところ、最も多いのは「インターンシップに参加して興味を持った」で、約半数が選んだ (49.1%)。2 位は「業界研究の結果、興味を持った」で 41.3%。

＜第1志望の業界を志望するに至ったきっかけ＞



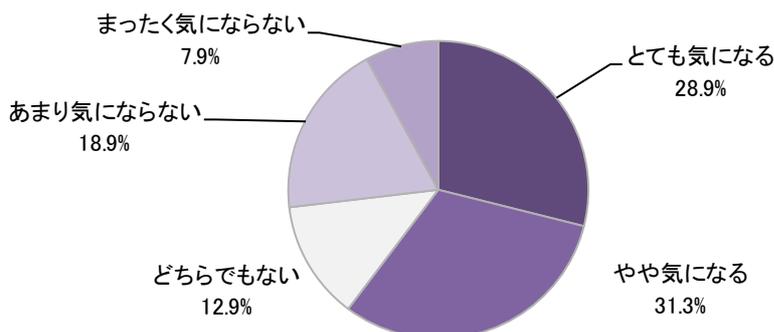
■業界研究の悩みなど

- 同じ業界にいる企業の最適な比較の仕方を知りたい。 ＜文系女子＞
- どのような業界がどの時期に選考があるのかなど、実情としての情報を知りたい。 ＜理系男子＞
- 高校生の頃からの夢を叶えられるような就職をしたいのですが、ガイダンス等では視野を広くと言われ、業界、職種を絞りすぎているのかと不安です。 ＜文系女子＞
- 行きたい業界がたくさんあり、未だにどの企業が自分に合っているか分からず困っている。 ＜文系男子＞
- 第二志望以下の業界の業界研究が捗らない。 ＜理系男子＞
- 志望業界が狭くて専門的なので、企業が多くは見つからず、内定をもらえなかったときに怖い。 ＜理系女子＞

3. 企業に提供した個人情報の管理や運用への考え

インターンシップなど企業への応募時に提供した個人情報について、管理や運用の仕方が気になるかどうかを尋ねてみた。「とても気になる」が 28.9%、「やや気になる」が 31.3%で、あわせて 6 割以上が「気になる」と回答した (計 60.2%)。

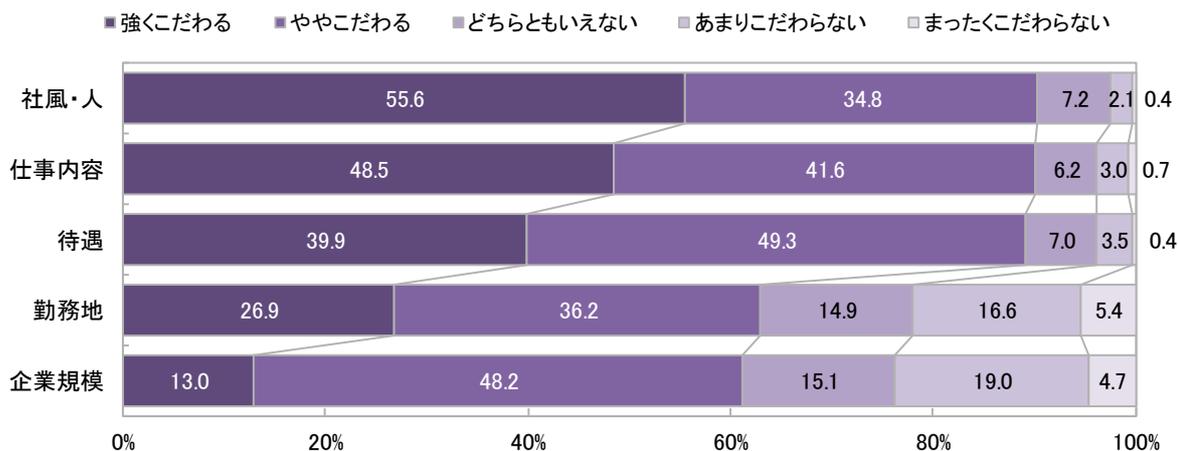
＜企業に応募した際の個人情報の管理や運用の仕方について＞



4. 企業選びのこだわり度合い

会社選びの軸として学生がよく挙げる 5 つの項目について、こだわりの度合いを尋ねた。「強くこだわる」が最も多いのは「社風・人」(55.6%)で、「ややこだわる」(34.8%)をあわせると 9 割を超える(計 90.4%)。「仕事内容」「待遇」も 9 割前後がこだわると回答した(それぞれ計 90.1%、計 89.2%)。逆に、こだわり度合いが低いのは「企業規模」で、強くこだわる学生は 1 割程度(13.0%)。ただし、「ややこだわる」(48.2%)をあわせると 6 割を超える(計 61.2%)。

＜企業選びのこだわり度合い＞

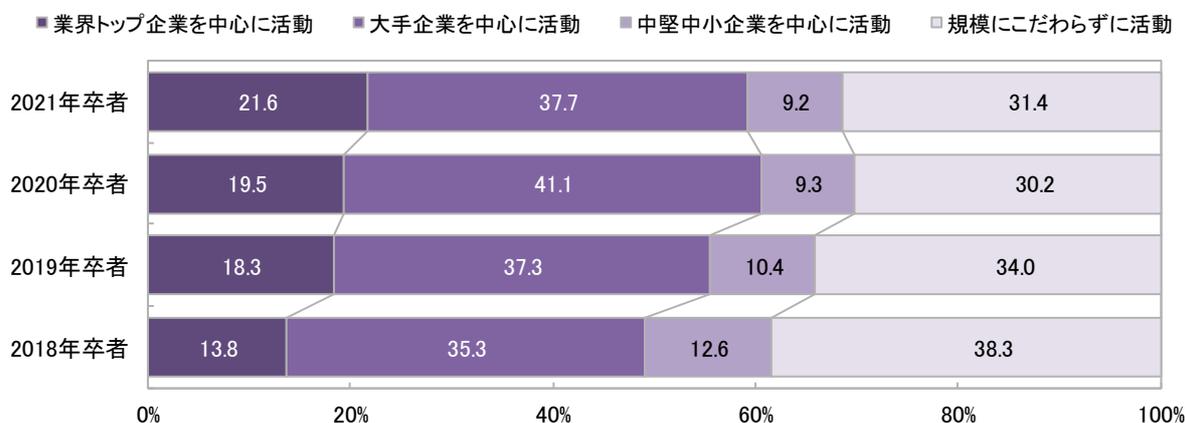


5. 就職活動の中心とする予定の企業の規模

就職活動の中心とする企業の規模を尋ね、4 カ年の推移を比較した。「業界トップの企業を中心に活動するつもり」21.6%、「大手企業を中心に活動するつもり」37.7%で、いわゆる大手狙いの学生は 6 割に迫る(計 59.3%)。特に、業界トップ企業を中心に活動する学生は 2018 年卒者(13.8%)以降年々増加し、2021 年卒者では 2 割を超えた。

上述の「企業選びのこだわり度合い」において、企業規模に強くこだわる学生は 1 割あまりだったが、大手企業を活動の中心に据える学生は依然多い。

＜活動の中心とする予定の企業規模＞

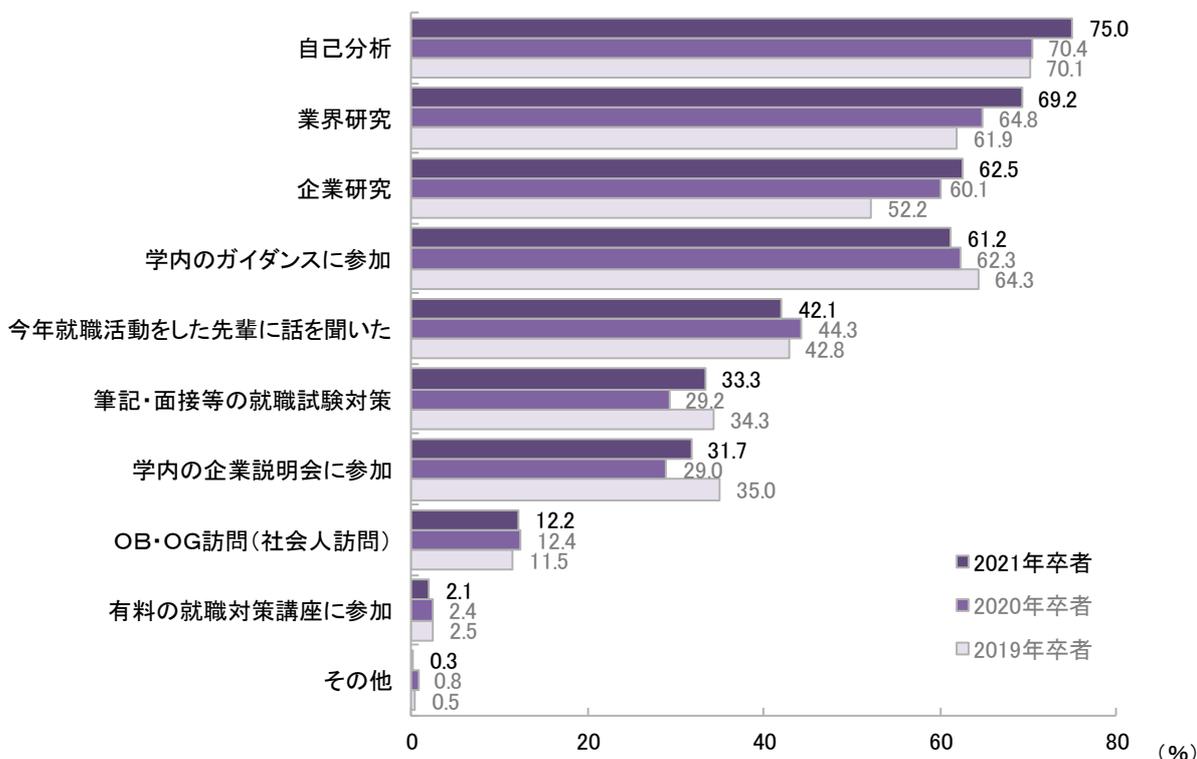


6. 就職活動準備状況

就職活動の準備として行ったことを尋ねたところ、最も多いのは「自己分析」で 75.0%、次いで「業界研究」が 69.2%で続く。「業界研究」と「企業研究」は3カ年で見ると約10ポイント増加しており、早めに準備を始める学生が増えている様子が表れている。一方「学内のガイダンスに参加」(61.2%)、「学内企業説明会に参加」(31.7%)は減少傾向が見られる。

就職情報会社が主催する就活準備イベント(インターンシップイベント、業界研究イベントなど)への参加状況を見ると、全体の87.8%が「参加経験あり」と回答。前年調査と同じ高い水準で、特に理系と比べて、文系学生の参加率が高い。また、一人あたりの平均参加回数は前年調査より増えた(4.1回→4.6回)。インターンシップ募集企業を探すだけでなく、企業の採用担当者や現場社員の話を聞くことで、業界研究や企業研究に役立てたいと考える学生が積極的に参加しているものと思われる。なお、今後の参加予定回数の平均は2.6回。

<就職活動準備でこれまでにやったこと>



<就活準備イベントへの参加経験>

	全体 (%)	(前年全体)	文系男子 (%)	文系女子 (%)	理系男子 (%)	理系女子 (%)
参加経験あり	87.8	87.5	90.2	91.1	82.1	84.8
参加経験なし	12.2	12.5	9.8	8.9	17.9	15.2

<就活準備イベントの参加回数>

	全体 (回)	(前年全体)	文系男子 (回)	文系女子 (回)	理系男子 (回)	理系女子 (回)
これまでの参加回数	4.6	4.1	5.3	4.6	4.1	3.9
今後の参加予定回数	2.6	2.9	3.0	2.9	2.0	1.8

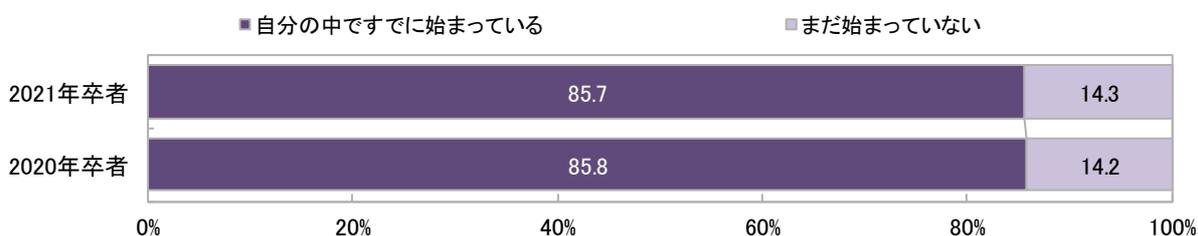
※就職情報会社が主催するものについて調査

7. 就職活動開始状況

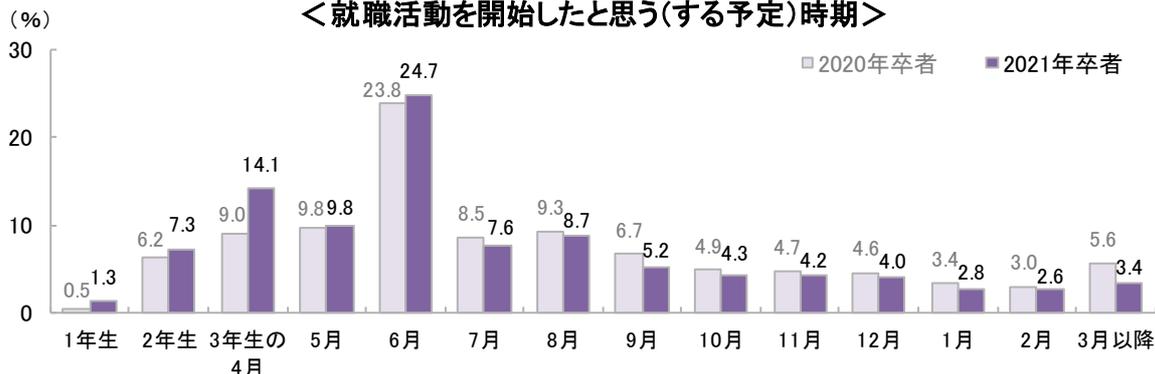
今回アンケートに回答した学生は、自身がすでに就職活動を開始していると感じているのだろうか。就職活動開始状況を尋ねたところ、前年同期調査とほぼ同率の 85.7% が「すでに始まっている」と回答した。開始時期は今年も 6 月が最も多く (24.7%)、前年よりも集中度が増した。一方で 4 月が 14.1% と前年より 5 ポイント増加。6 月までの合計は 6 割に迫り (計 57.2%)、活動開始の早期化が見て取れる。

さらに、何をすることで就職活動が始まったと考えているのか尋ねると、最も多かったのは「インターンシップ情報を探す・応募する」(21.5%) で、「自己分析を始める」(15.7%) が続く。夏季インターンシップに向けて、企業探しを始めたり、応募のための自己分析を始めたりしたことを「就活スタート」と捉える学生が多いことが読み取れる。

<就職活動の開始状況に対する考え>

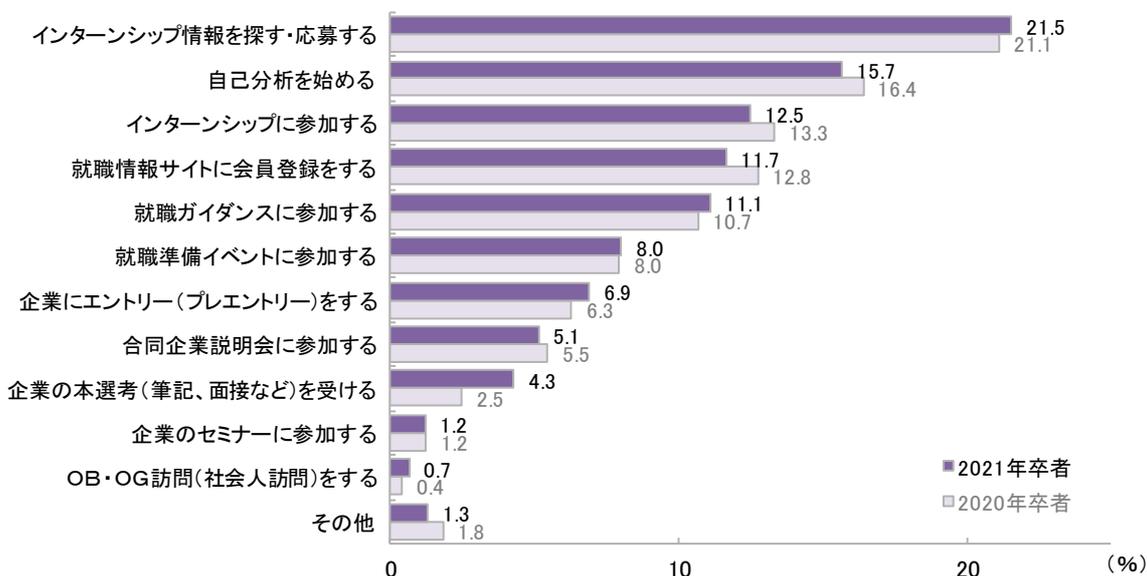


<就職活動を開始したと思う(する予定)時期>



※自分の中ですでに始まっていると回答した人は「開始したと思う時期」、まだ始まっていないと回答した人は「開始予定時期」

<「就活スタート」と思う行為>



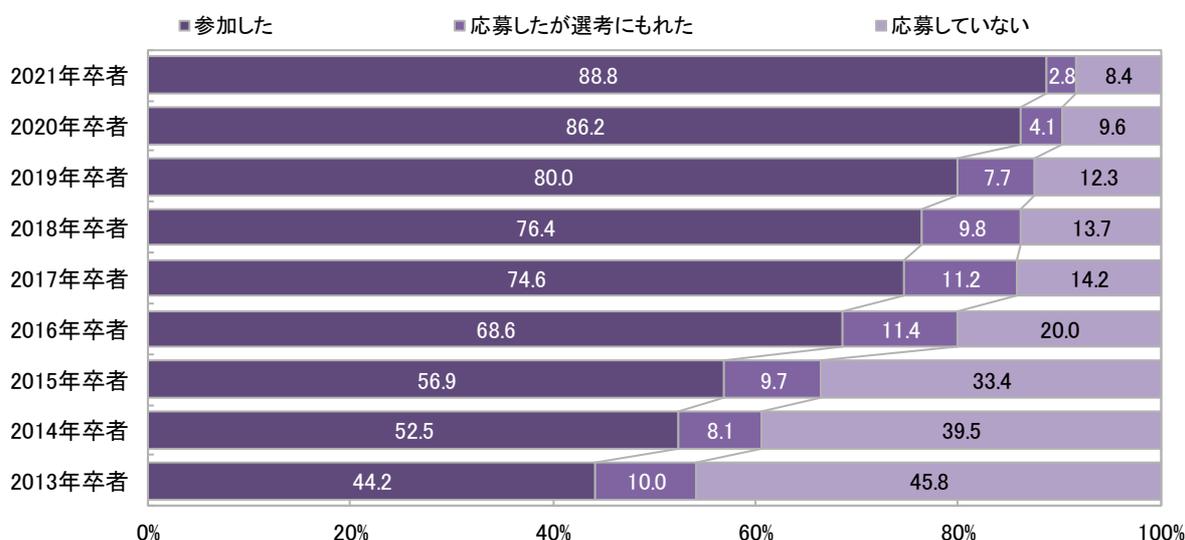
8. インターンシップの参加状況

インターンシップの参加状況を尋ねたところ、参加経験がある学生はモニター全体の88.8%だった。前年同期調査より2.6ポイント増加しており、8年連続で増加傾向が続いている。

参加社数を見ると、ショートプログラムへの参加が多く、「1日以内のプログラム」が平均4.8社で、前年より0.8社増加した。属性別に見ると、理系に比べ文系学生の方が多くのインターンシップに参加している。

なお、参加時期は「8月」(78.7%)と「9月」(73.4%)に集中している。前年調査と比較すると、参加率・参加社数の増加に伴い、すべての時期で前年を上回っている。

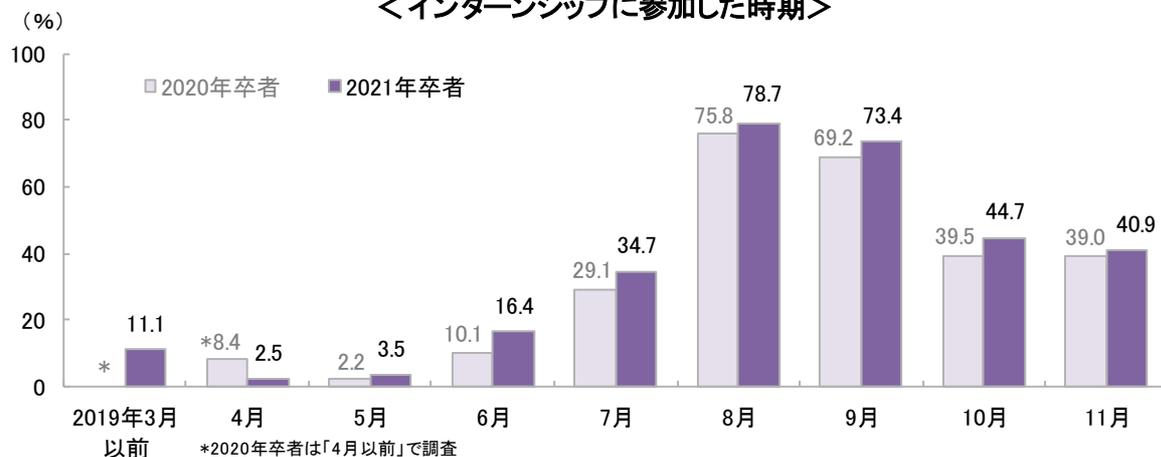
<インターンシップ参加経験>



<インターンシップ参加社数/平均>

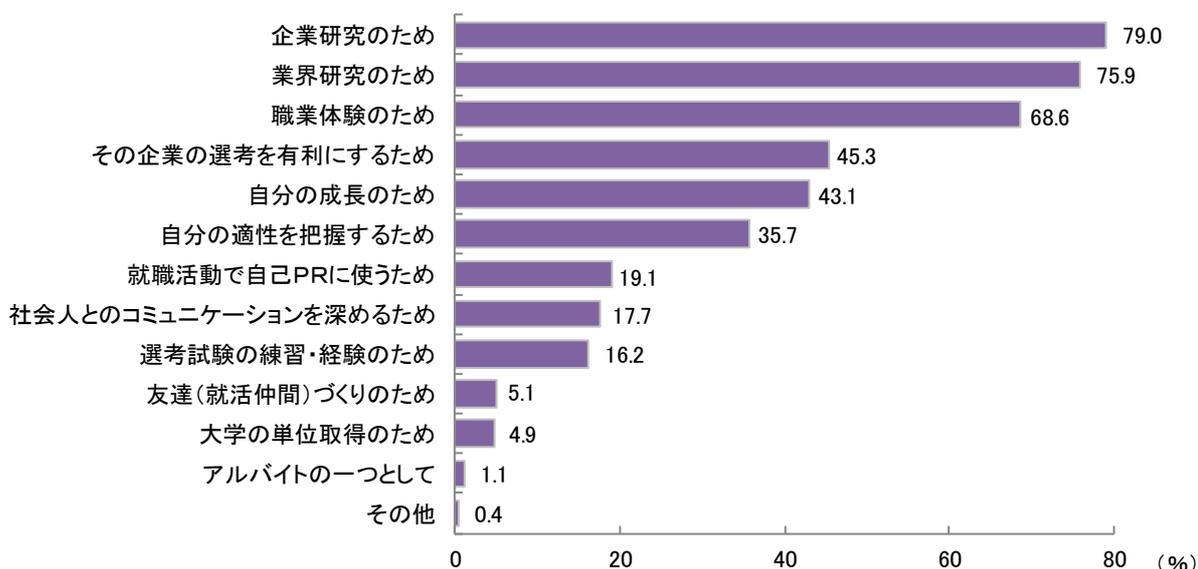
	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
1日以内のプログラム	4.8	4.0	6.0	5.1	3.7	3.8
2~4日間のプログラム	2.1	1.9	2.5	2.0	1.8	1.6
5日以上プログラム	1.4	1.4	1.5	1.3	1.3	1.4

<インターンシップに参加した時期>



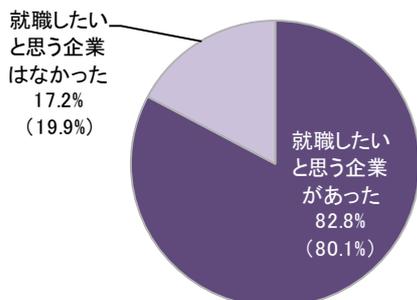
応募理由を複数回答で尋ねたところ、最も多かったのは「企業研究のため」で約8割に上る(79.0%)。「業界研究のため」(75.9%)、「職業体験のため」(68.6%)が続き、上位3項目にポイントが集中。インターンシップを通じて仕事や企業への理解を深めたい学生が多いことが読み取れる。

＜インターンシップに応募した理由＞



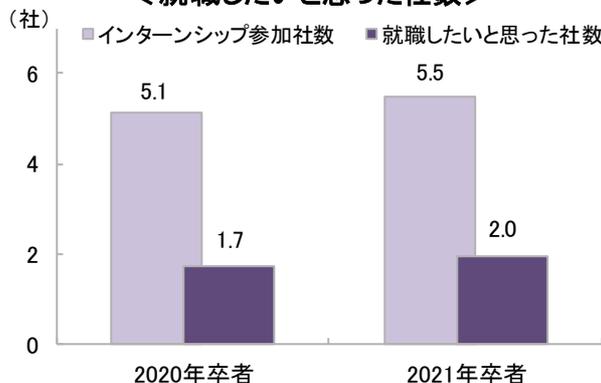
参加した結果、就職したいと思う企業があったかどうか尋ねたところ、「あった」と回答した学生は8割を超える(82.8%)。平均参加社数5.5社のうち、就職したいと思った企業は2.0社。前年と比べると、インターンシップ参加社数の増加に伴い、就職したいと思った社数も増加した(0.3社増)。

＜インターンシップ参加企業への就職意向＞



※()内は2018年11月調査の数値

＜就職したいと思った社数＞



■インターンシップに応募した理由

- 知らない業界を知る上で有用なものであると思ったから。 <文系男子>
- 業界研究するには、実際に働いている人の姿を見て、話を聞くのが1番だと思ったから。また業務を体験して自分が働いているイメージを持てるかどうか大切であると感じた。 <文系男子>
- 実際に行かないと会社の雰囲気かわからないから。また、せっかく行くので何かしら選考に有利なことがあると期待して。 <文系女子>
- 所属する学科と接点がない業界は、本で調べるよりも、実際にインターンシップに行くことで理解が進むと思うから。 <理系男子>
- 志望する業界、企業で本当に自分の希望する仕事が行われているのか知りたいと思ったから。また、社内の雰囲気について知りたかったから。 <理系女子>

9. 今後のインターンシップ参加予定

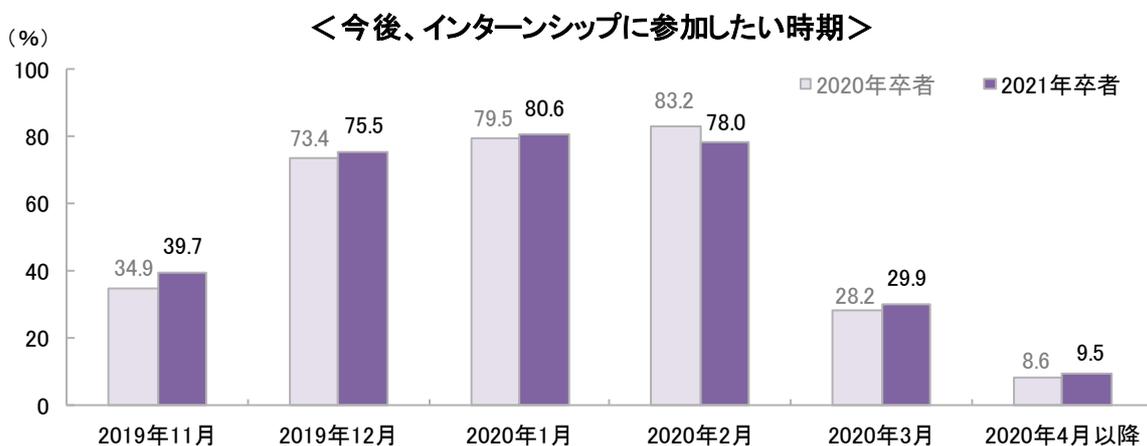
今後のインターンシップについて、「参加したい」と回答した学生は88.3%で、9割近くが参加意向を示した。

参加意向のある学生に、参加したい時期を尋ねた。最も多いのは「1月」で8割超(80.6%)。「2月」(78.0%)が僅差で続くが、前年より約5ポイント減少。一方、1月以前は前年を上回っており、早い時期に参加したい意向が強まっている。

具体的に参加したいインターンシップとして最も多いのは「短期のもの」で、約8割と圧倒的に多い(80.5%)。内容に関する項目では「業界や企業の概要を理解できるもの」(55.2%)「志望業界や志望企業への理解を深められるもの」(54.4%)「社員と交流できるもの」(51.7%)が半数を超える。

＜今後のインターンシップ参加予定社数／平均＞

	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
参加したい	88.3	91.5	87.8	92.0	85.8	85.5
参加したくない	11.7	8.5	12.2	8.0	14.2	14.5



＜今後参加したいインターンシップ＞

